

「うめきた2期 これからのまちづくり」

大阪市 都市計画局 うめきた整備担当部長
合 田 寛

平成29年10月27日

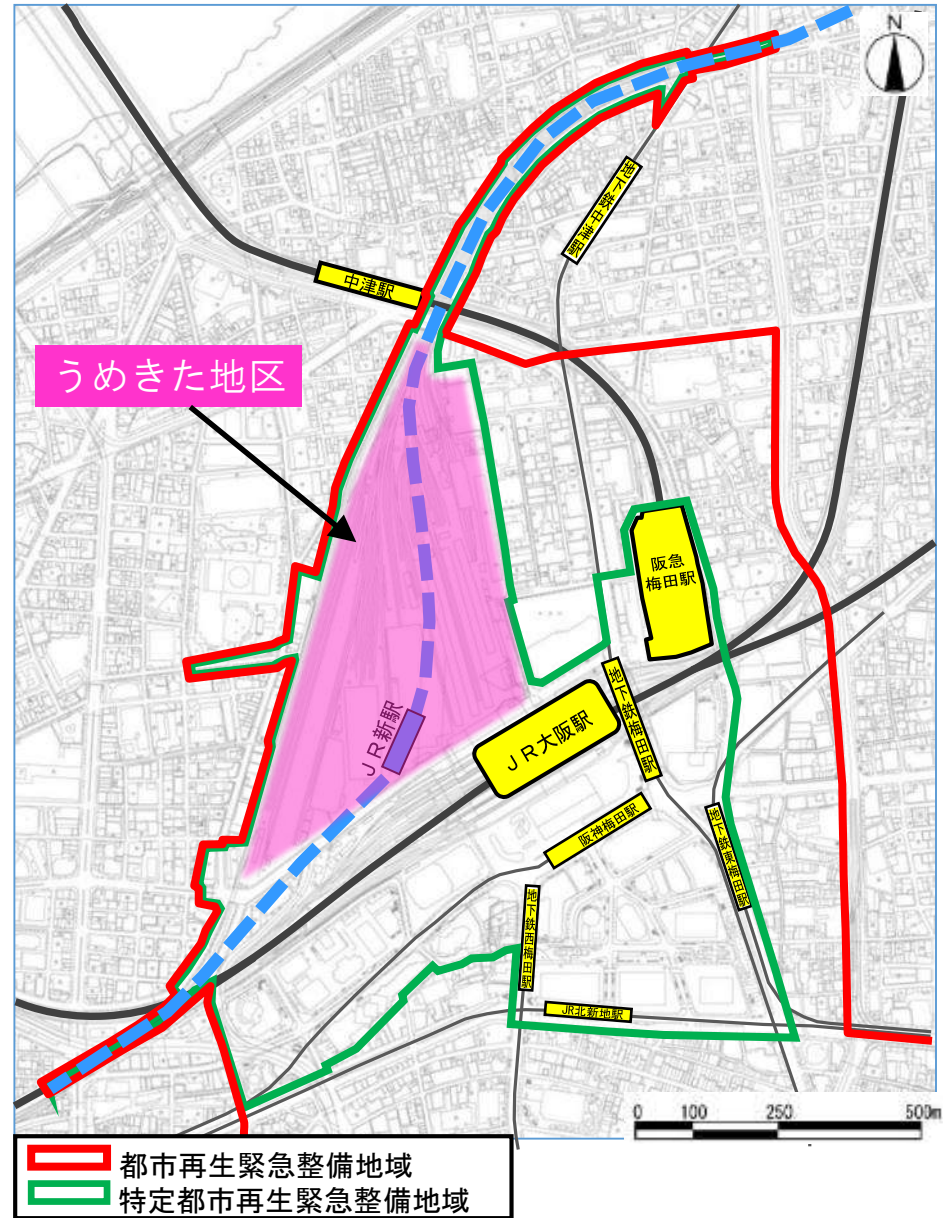
うめきた地区の概況

位置図（関西圏）



出典：ナレッジキャピタルハブレット((株)ナレッジ・キャピタル・マネジメント)

うめきた地区周辺は、JR・阪急・阪神・地下鉄3線、9駅が乗り入れ、1日240万人の乗降客が行き交う西日本最大のターミナルであり、関西の業務商業機能が集積している。



 都市再生緊急整備地域
 特定都市再生緊急整備地域

まちづくりの経緯

	全体に関すること	
	先行開発区域に関すること	2期区域に関すること
2002年 7月	都市再生緊急整備地域に指定	
2002年 9月	大阪駅北地区国際コンセプトコンペの実施(2003年3月結果公表)	
2004年 3月	「大阪駅北地区まちづくり推進協議会」の設立(経済界、学識、行政などで構成)	
7月	「大阪駅北地区まちづくり基本計画」の策定	
12月	土地区画整理事業、道路、駅前広場の都市計画決定	
2006年 2月	地区計画、用途地域等の都市計画決定 開発事業者募集の開始(主催者:都市再生機構、鉄道機構)	
5月・11月	開発事業予定者の決定	
2008年 2月	地区計画、都市再生特別地区の都市計画決定	
2010年 3月	工事着工	
2011年 4月		土地区画整理事業、道路、都市高速鉄道、駅前広場の都市計画決定
2012年 1月	特定都市再生緊急整備地域に指定	
2012年 9月	「大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会」の設立(経済界、学識、行政などで構成)	
2013年 4月	グランフロント大阪 開業	
2013年10月		うめきた2期区域開発に関する民間提案募集の実施 (2014年3月 優秀提案の決定)
2015年 3月		「うめきた2期区域まちづくりの方針」を策定
2016年 4月		イノベーション拠点のテーマ「ライフデザイン・イノベーション」に決定
2017年 6月		うめきた2期みどりとイノベーションの融合拠点形成 推進協議会の設立

都市再生緊急整備等の箇所

■都市再生緊急整備地域と特定都市再生緊急整備地域の位置

◆ 5地域(10地区)

◆ 2特定地域(4地区)



開発前のうめきた (2004年)

淀川

うめきた先行開発区域 (1期)
(約7ha)

梅田スカイビル

阪急梅田駅

うめきた地区
(約24ha)

JR大阪駅

西梅田地区

先行区域完成時のうめきた（2013年）

うめきた先行開発区域
（グランフロント大阪）
《約7ha》

うめきた2期区域
《約17ha》

JR大阪駅



現在のうめきた（2017年）

平成29年7月撮影



2期区域の基盤整備事業

JR東海道線支線地下化事業(連続立体交差事業)及び新駅設置事業

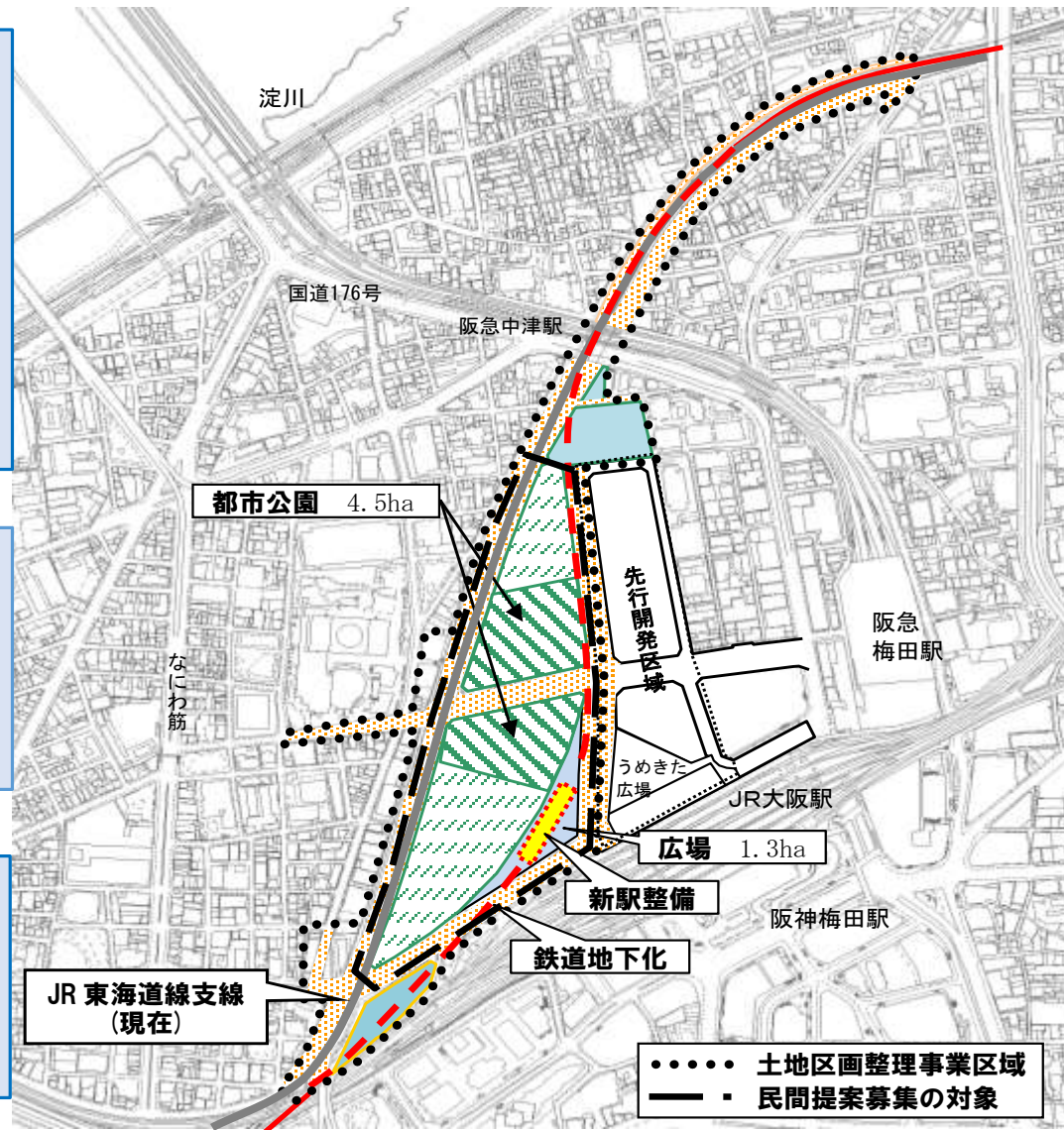
- 地域分断の解消及び踏切除却による交通の円滑化
- 関西国際空港への移動時間短縮(現状66分→約20分短縮)
- 事業主体：大阪市(地下化)
JR西日本(新駅)
- 事業期間：H26年度～H35年度

土地区画整理事業

- 民間開発の基盤となる道路・広場等の整備
- 事業主体：UR都市機構
- 事業期間：H27年度～H38年度

防災公園街区整備事業

- 防災機能を備えた緑豊かなオープンスペースの確保による高質な都市空間の演出
- 事業主体：UR都市機構
- 事業期間：H30年度～H38年度



うめきた2期まちづくりの方針

2013年10月

うめきた2期民間提案募集開始

- 応募者数40者
(国内23者、海外17者)

2014年3月

民間提案優秀者の決定

- 総合的に優秀な提案 (10者)
- プランニングやデザイン等が優秀な提案 (10者)

2014年6月

うめきた2期区域まちづくり検討会発足

- 5回開催

「大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会会議 大阪駅周辺地域部会」のもとに設置

2015年3月

「うめきた2期区域まちづくりの方針」策定

「大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会会議 大阪駅周辺地域部会」にて決定

2期まちづくりの目標

～「みどり」と「イノベーション」の融合拠点～

＜未来志向のライフデザイン・イノベーション拠点＞



世界の人々を惹きつける
比類なき魅力を備えた「みどり」

まち全体を包み込む「みどり」が
ここにしかない新しい都市景観
を創出し、多様な活動、新しい
価値を生み出す源となり、世界
の人々を惹きつける

他に類のない
参加型・屋外型
実証フィールド

新たな国際競争力を獲得し、
世界をリードする「イノベーション」の拠点

世界からの人材、技術を集積・交流させ、
新しい産業・技術・地財を想像すること
で新たな国際競争力を獲得し、我が国
の成長エンジンとして世界をリードする
「イノベーション」の拠点となる

□ 「みどり」の整備と管理運営

- ・ 中央部の都市公園と、民間敷地内の「みどり」が一体となって、これまでにない魅力的な都市空間を創り出す。
- ・ 民間事業者が都市公園を含むまち全体のみどりを主体的に管理運営し、比類なき魅力を備えた“みどり”を持続的にマネジメントする。都市公園については指定管理者制度を前提に、都市公園法による設置管理許可制度を最適な形で組み合わせ、一体的な整備・管理運営を実現。

□ 新産業創出機能の実現

- ・ 関西一円の研究開発拠点・大学の新技术と人のネットワークの構築に中心的役割を果たす総合コーディネート機関の設置と、イノベーション創出を支援する国の機関等の誘致により、研究開発から実用化まで切れ目のない支援の機会を提供する。

うめきた 2期 都市公園の考え方

めざすべき姿

- ✓ まちと一体的に整備され、まちと一緒に成長する“みどり”の核となる都市公園

多くの人が往来するうめきた地区の中央に造られる都市公園は、多様な人の多様な使い方によりその価値を創造し、人と都心に育まれる「みどり」との関係性を提唱した新たなまちづくりの核となることが期待される

2期の都市公園の利活用方針

- ✓ 多くの人を訪れ、交流し、新たなまちの活力や賑わいが生まれる



© André Natta



© 株コトブキ

イメージ写真

- ✓ 都心に育まれた豊かな緑を通じて、人々が潤いや安らぎを感じる



© 株コトブキ



イメージ写真



都市公園の空間構成

2期まちづくり目標を実現するために提案されるコンセプトに基づき、多様な形態で利活用される空間が、まちづくりと連動してバランスよく効果的に配置されるとともに、これらの空間が、災害時には、効果的に防災機能を発揮することが求められる。

公民連携による質の高い公園整備の実現に向けて

公共による質の高い整備

公共が実施する都市公園事業等により、うめきたにふさわしい公園の整備水準を実現（最大約16億円を確保）



イメージ写真



民間によるまち魅力を高める整備

民間の柔軟な発想や優れたアイデアを活かした、まち全体の魅力を更に高める公園や施設の提案を積極的に求める



イメージ写真

まちと都市公園の一体的な整備の実現に向けて

都市公園が、まちと一体的に整備され、まちと一緒に成長するために

公園の景観形成や動線計画などがまちづくり全体の計画の中で調和、連動しているとともに、公園の利活用や管理運営などのソフト面においても、有機的にまちと連携することが大切

まちと公園が一体となった整備を実現するために

都市公園の可変区域の設定

地区中央部の“みどり”として4.5haの都市公園を確保しつつ、より良いまちづくり提案を導くために、一定の条件下で公園区域の一部の形状変更を可能とする

- ✓ まちと隣接する部分の、境界形状の変更を可能とする
- ✓ 街区間の面積バランスを考慮して、北街区から南街区へのみ約0.5haを上限に面積移動を可能とする



“比類なき魅力を備えたみどり”の実現に向けて

○新たな寄附事業の創設

うめきた2期のまちづくり方針にある“比類なき魅力を備えたみどり”の実現に向け、平成28年秋に府市連携しつつそれぞれで新たな寄附事業を創設。個人、企業、団体など多くの方々と未来のみどりを育むための新たな仕組みを構築。

比類なき魅力を備えたみどり

都市公園等の整備・
管理運営に充当

民間のみどりの充実
に向けた整備助成



3

うめきた2期の中核機能 「関西の新技术を人に繋ぐ」

□技術の「橋渡し」役を担い、事業化をスピードアップ



- ・うめきた1期では、起業家をはじめ多様な人材が集積。ITやサービス分野でビジネスを創出
- ・うめきた2期では、1期での活動を活かしながら、関西一円の研究開発拠点・大学の新技术を、多様な人材に「橋渡し」する機能を実現し、新技术を基に事業化を図るプロジェクトチームを次々と組成
- ・そのため、うめきた2期に技術と人が集まる『イノベーションプラットフォーム』を構築。技術と人のネットワークの構築に中心的役割を果たす総合コーディネート機関の設置と、イノベーション創出を支援する国の機関等の誘致により、研究開発から実用化まで切れ目のない支援の機会を提供

研究開発拠点・大学等

うめきた2期

うめきた1期

・研究開発プロジェクト組成、管理
(人材ネットワーク、ニーズマッチング)
・活動用ラボ、フィールドの提供

・国等の公的資金供給
・ビッグデータ利活用、社会実験

・起業支援(交流促進、インキュベーション・オフィス提供)
・VC等による事業化資金供給
・マーケティング、プロモーション

基礎研究

実用研究開発

試作・実証研究

起業・新たな事業化

「みどり」を活用したイノベーション創出

- うめきた2期の都心の「みどり」の空間を通じて、来街者が参加・体験し、楽しみながら商品開発や評価に参画できる、世界で唯一のフィールドを実現
- 「みどり」の空間で繰り広げられる人々の活動は、個々人の協力を得て情報として活用され、新しい技術やサービスに繋がり、社会課題の解決に生かされることが期待される



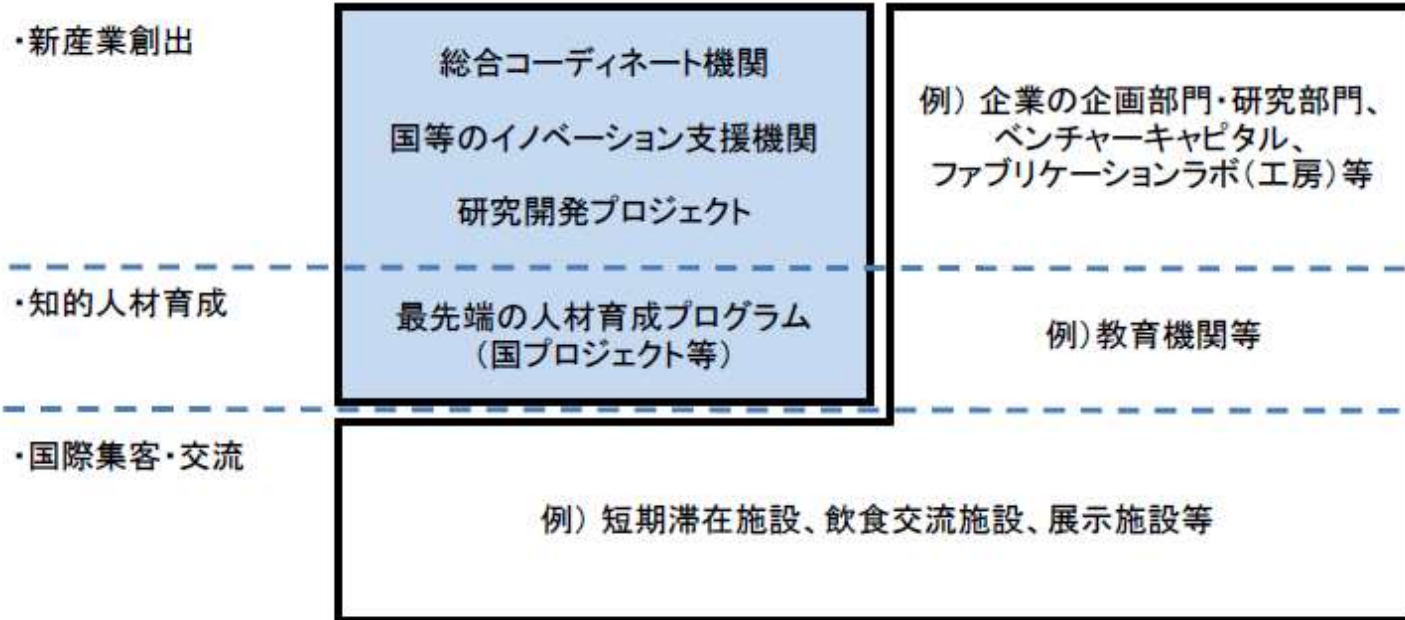
ライフデザイン・イノベーション

超スマート社会が到来する中、IoTやビッグデータ等の活用により、創薬や医療機器開発などの分野にとどまらず、人々が健康で豊かに生きるための新しい製品・サービスを創出

- 「みどり」のフィールドで行う様々な活動やモニタリング・データ収集等に必要となる設備として、通信基盤、電源、給排水設備等をあらかじめ整備
- 実証を行うための前線基地となる空間を、「みどり」の中の施設内などに確保

イノベーションプラットフォームの構成

□イノベーションプラットフォームは、「プラットフォーム施設」と「イノベーション施設」で構成

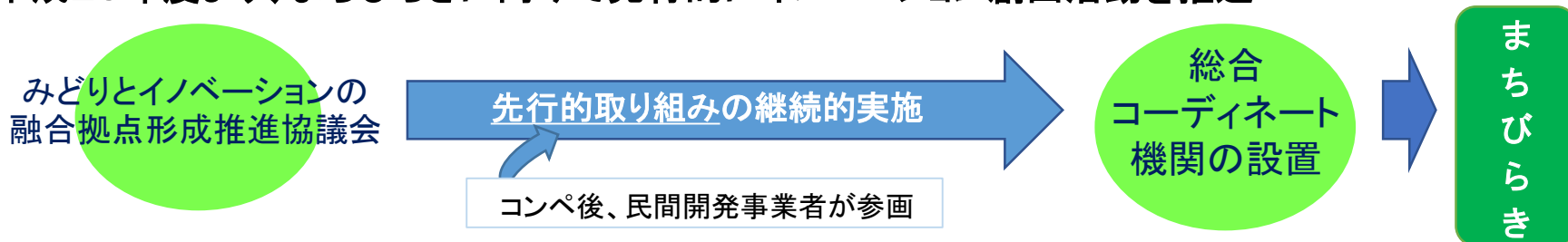


プラットフォーム施設 延べ床10,000㎡の規模。入居機関のオフィス、共用ラボ、共用講義室、会議室等により構成

イノベーション施設 プラットフォーム施設の入居機関や利用者と連携して、「新産業創造」、「知的・人材育成」、「国際集客・交流」に貢献する事業を行う企業等により構成

新産業創出機能の実現に向けて — 先行的取組み

地域の取り組みにより、うめきた2期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会を立ち上げ、平成29年度より、まちびらきに向けて先行的にイノベーション創出活動を推進



うめきた2期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会（平成29年6月20日設立）

■組織

- | | | |
|------|--------|--|
| ○協議会 | 代表 | 関西経済連合会（専務理事） |
| | 副代表 | 大阪商工会議所（常務理事） |
| | 監事 | 大阪府（住宅まちづくり部理事） |
| | 会員 | 大阪府（住宅まちづくり部長）、大阪市（都市計画局長、経済戦略局長）、UR都市機構（西日本支社長）、大阪科学技術センターOSTEC（専務理事） |
| | アドバイザー | 国（文部科学省・経済産業省）関係者、学識経験者等 |
| ○幹事会 | 幹事長 | 大阪市（うめきた企画担当部長） |
| ○事務局 | | OSTEC |

■平成29年度の主な活動内容

- ・ 設立記念シンポジウム（8月2日開催）
- ・ 関西の研究開発拠点等との連携、産学官連携コーディネーター等とのネットワーク構築
- ・ 海外のイノベーション拠点とのネットワーク構築
- ・ プロモーションイベント「（仮）関西イノベーションフェスタ2018」の開催（平成30年2月予定）

うめきた2期区域の暫定利用

民間開発が本格化するまでの間、まちづくりのプロモーション、周辺エリアの賑わいの創出及び防災意識の普及啓発等が図られるよう、暫定的な利活用を目的に、事業者の募集を実施

■ H28年度、29年度⇒ 約34万人が来場
(10月末推計)

5月～ うめきたグランピング
バーベキューパーク



4月～ うめきたSOBAプロジェクト



7月 ドローン活用による次
世代産業の創出



10月～ うめきたガーデン
ファイナル



12月 みどりのサンタの植・食、
健康フェスタ



A区域

約7,400㎡



B区域

約8,300㎡

うめきた 2 期のまちづくり ～スケジュール～

2015(平成27)年1月	地下化・新駅事業開始
2015(平成27)年3月	「まちづくりの方針」決定
2015(平成27)年10月	URがJRTT用地を取得
2015(平成27)年11月	土地区画整理事業開始
2017(平成29)年6月	みどりとイノベーションの融合 拠点形成推進協議会設立
2017(平成29)年冬	民間提案 2 次募集開始
2018(平成30)年夏	民間提案事業者決定
2023(平成35)年春	新駅開業・地下化切替
2024(平成36)年夏	まちの概成 (先行まちびらき)
2026(平成38)年度末	基盤整備終了